

『定年退職後の私の活動』

昭和 43 学機 今井 信行

【自己紹介】

私は、1964年（昭和39年）4月に茨城大学工学部機械工学科に入学しました。この年は6月に新潟地震発生。10月10日から東京オリンピックが開催された年です。1年生は水戸で一般教育の授業、2年生から4年生までは日立での学生生活を送りました。入学すると同時に弓道部に入り各種の大会に参加して4年間を楽しく過ごすことが出来ました。

田舎育ちの私にとっては初めて目にする日立の工場群は目を見張るものがありました。機械科を卒業するときに日本機械学会畠山賞を受賞し賞金と分厚い機械工学便覧を頂いたことが記憶に残っています。

卒業後は1968年（昭和43年）4月に地元宇都宮市にある富士重工業株式会社宇都宮製作所（現：SUBARU）に就職し「環境・輸送機器事業部」で特殊車両や環境機器の設計開発、商品企画、品質管理（ISO9001の事務局長）等を経験しました。

定年退職後は、現職時代の経験を生かして日本規格協会所属のISO審査員及び判定委員として80歳の現在に至っています。

【定年退職後にISO審査員と判定委員として活動】

多賀工業会に所属の皆様には現役で働いておられる方も多いと思いますので私の定年後の活動経験を紹介し皆様の定年後の活動に少しでも参考になれば幸いに思います。

ISOの審査員になったきっかけは、工学部時代の弓道部の先輩で当時の防衛庁を退官した後に日本規格協会審査登録事業部の人事課長をやっていた方がおり、弓道部の同窓会で富士重工を退職したら日本規格協会の審査員に来いと誘われたのがきっかけです。審査員への面接試験は先輩とレストランでの会食でOKとなりました。先輩との「縁」で第二の人生を充実して送ることが出来ました。

品質マネジメントシステム規格は、当初アメリカやイギリスが中心となりBS5750の名称で1987年（昭和62年）に初版が発行されました。防衛産業の品質管理をベースに作成されました。しかし、それが一般に広がったのはISO9001と名前が変わった1994年（平成6年）頃からです。

2000年（平成12年）からISO9001品質マネジメントシステム審査員、2005年（平成17年）から環境マネジメントシステム（ISO14001）と食品安全マネジメントシステム（ISO22000、FSSC22000）の審査員になり、途中から審査員と判定委員も兼務して現在に至っています。

また、日本版環境マネジメントシステムである「エコアクション21」の審査員と東京にある中核地域事務局アドバンスL a b の判定委員も担当しています。

富士重工業在籍時にISO9001の事務局長を担当し、その時に事業部全部門のマネジメントシステムを見直してISOに沿って社内規定を全部門一貫性のあるシステムに再構築しました。それが会社組織の事業活動と業務プロセス(管理項目)を理解する機会となり、審査員になった時に大変役立ちました。一設計者だけの経験で審査員になっていたら苦労も多かったことと思います。

一方、環境マネジメントシステムの審査では現役時代に経験が無いので特に環境関連法規制を理解することは大変な事でした。また、食品安全マネジメントシステムの審査では衛生管理の専門知識が無いのでこれも大変でした。その為に、60歳の時に宇都宮大学農学部に半年間席をおき我が子より若い学生たちと微生物学、食品保藏学を学び単位を取得しました。今になっては懐かしい思い出です。

【審査員業務の魅力とやりがい】

審査員となり北は北海道稚内から南は沖縄県宮古島まで全国を審査で回り、製造業、建設業、食品製造業、商業など様々な業種の審査をしました。

審査では、多種多様の企業と製造及びサービスプロセスを見る事ができるので自分自身の知識拡大、コミュニケーション能力、文書作成能力などの向上に繋がりました。

受審企業も審査員から同業他社の参考となる情報聞きたい、或いは、自社の第三者からの評価も期待しているのでそれに応えて少しでも受審企業に役に立つ審査を心掛けてきました。審査の帰りに“改善の参考になりました”と企業の喜びの声を聞くと審査の苦労も忘れます。

今になると全国各地を回り様々な企業を見てきたこと、多くの経営者層と対話できたこと、各地の名所を見物できたことが素晴らしい思い出であり本当に充実した第二の人生を送ることが出来たと思っています。

沢山の思い出がある中で、岩手県の小岩井乳業の審査の時に丁度その頃に福田こうへいの「南部蝉しぐれ」が流行しておりタクシーが零石町を通りかかった時にラジオから“南部盛岡 零石～思えば遠い ふるさとよ～”と流れて演歌が大好きな私は周囲の風景と演歌が溶け合い一体になって感動したことを覚えています。

栃木県庁の環境マネジメントシステム外部監査を約10年、宇都宮市役所の外部監査を約15年担当し身近な自治体の取組を知ることが出来たことも良い経験でした。

【定年された又は定年間近の皆様方へ】

現在80歳を迎えました。80歳になると体力・気力が衰えて全国をまわるのは難しく、ま

た、老いた姿で企業を訪ねるのはみっともないと思い、今は現地審査を辞退して審査の判定委員に注力しています。また、環境省の国内版環境マネジメントシステムである「エコアクション21」では審査対象組織が原則的に県内組織の為に容易に車で移動ができるので現地審査と事務局の判定委員をやっています。

多賀工業会の方でISOの審査や環境省のエコアクション21の審査をやってみたいと思う方がありましたら私まで連絡下さい。審査機関を紹介します。

私が所属した日本規格協会（審査部門は現在独立して日本規格協会ソリューションズ株式会社となる）はJIS規格を作成する組織でもあり経済産業省と関係が深いのでシッカリした組織です。審査員の扱いも他の審査機関に比べて良いのではないかと思います。

どこの企業でも同じですが審査機関も審査員の高齢化、人材不足の状態ですので60歳代の方でしたら審査員になるチャンスがあります。70歳代になると採用は難しいです。定年後に皆さん生きがいのある人生を選択されることを心からお祈ります。

【最近の活躍状況】

企業に於いては品質管理の知識が特に重要ですが退職後の一般社会生活では環境管理や食品安全の知識の方が身近な問題であり周囲の方々に役立ちます。その様な訳で現在は環境カウンセラー、或いは、地域のまちづくり協議会の役員として自然保護活動などに取組んでいます。趣味として吟詠（詩吟）の会に入り仲間達と余暇を楽しんでいます。昨年は、吟詠・詩舞・剣舞の全国大会が日本武道館であり吟詠の部に栃木県代表団体の一人として参加し大舞台で吟じることが出来ました。

審査活動では、今迄に会得した経験・知識を企業の皆様に伝承して会社の発展に生かしていくために審査を通じた継続的改善に向けた指導に力を入れています。

最後に多賀工業会の皆様方の健康と第一線を退いてからの更なる活躍を期待して、私の定年退職後の活動の一端の報告をしめくくらせていただきます。

以上

(2026年1月5日)